

THE

GAME CHANGER

ゲームチェンジャー

RI 指定記事

『ROTARY』2月号から

オンラインカ・ハキーム・ババロラ
2026 – 27 年度
国際ロータリー会長インタビュー

Photography by
Monika Lozinska

オンラインカ・ハキーム・ババロラ氏は、目の前のパソコンの画面を見つめていました。アフリカ大陸をはじめ、世界各地から参加した300人のローターアクターとのオンラインミーティングを終えたところだと言います。「私が元ローターアクターということで、お祝いしてくれました」。かつて彼らと同じ立場にあったババロラ氏が、国際ロータリー（RI）会長エレクトに就きました。その姿は、画面の向こうにいた300人のうち、少なからぬ人数の若者にインスピレーションを与えたことでしょう。





時は昨年10月初旬。R I 理事会が8月下旬の特別会合でババラ氏を会長エレクトに選出してから、まだ2カ月もたっていませんでした。これは、9月に逝去した当初の会長エレクト、ユン・サング氏が特別会合の直前に辞任したことを受けての決定でした。

ナイジェリアのトランス・アマディ・ロータリークラブ(RC)所属のババラ氏にとって、R I 世界本部訪問は会長エレクトになって2度目。執務室はほとんど何も置かれておらず、会長エレクトとして各地を訪れる中で集まっていくはずの記念品も、見当たりません。

ババラ氏は1984年にローターアクターとしてロータリーに関わり、94年にロータリアンになりました。「40年以上にわたるロータリーでの経験が、この役職に就くための準備になりました。この立場に就く人の中で、これほど長い会員歴を持つ人は多くないでしょう」

R I 副会長、理事を歴任した他、

「END POLIO NOW：歴史をつくるカウントダウン」キャンペーン委員会やナイジェリア・ポリオプラス委員会などで中心的な役割を担ってきました。災害救援を行う慈善団体・シェルターボックスの理事も務め、「ポリオのない世界のための奉仕賞(地域賞)」「超私の奉仕賞」「ロータリー財団功労表彰状」などを受賞しています。妻でポートハーコート・パスポートRC会員であるプレバさんと共に、アーチ・クラフ・ソサエティの会員でもあります。

こうしたロータリーでの活動に加え、石油・ガス業界で25年間キャリアを積み、シェル社で複数の要職を歴任。石油・ガス関連インフラ企業、リエラ・テクニカル・サービス社と、経営幹部向けコーチングや組織変革を支援する、リード・アンド・チェンジ・コンサルティング社の創業者でもあります。

『Rotary』誌編集者のダイアナ・ショーバークが、会長エレクトの素顔に迫りました。

テレビで見た“ある人物”が、ロータリーとの出会いだった

大学進学前の夏休み、自宅でテレビを見ていたババラ氏の目に、真っ白な服を着た紳士が映りました。「彼の話す英語がとても特別でした」と振り返ります。耳を傾けると、その男性はロータリーについて語っていました。「ロータリーという言葉聞いたのは、あれが初めてでした。1~2分ほどの短いインタビューでしたが、強く心に残ったんです」

大学2年の時、バウチRC会員である大学の広報担当者から、学内でローターアクトクラブを立ち上げないかと声をかけられました。「なぜ私だったのか、今でも分かりません」と笑います。ふと、テレビで見た“白い服の

写真上：R I 世界本部ビル前で、財団管理委員のマーサ・ピーク・ヘルマン氏(左)、ならびにR I 副会長アラン・ヴァン・デ・ポール氏(右)と共に

男性”を思い出し、その人物を知っているか尋ねると、パストガバナーだと分かりました。この不思議な縁に背中を押され、ババロラ氏はローターアクトクラブの創立会長を務めることになります。

妻との出会いはローターアクト

大学卒業後、ポートハーコートに移り、地域社会を基盤とするトランス・アマディ・ローターアクトクラブに移籍。ある行事で、大学基盤のクラブ会長を務める1人の女性に目を奪われ、友人にこう言いました。「彼女だ」。その直感は正しく、彼女が後に妻となるブレバさんです。

家族ぐるみでロータリーに関わってきました。長女は中学校のインターアクトクラブ創立会長を務め、大学進学を機に北米に渡り、現在はカナダ・マニトバ州のウィニペグRCに所属。もう一人の娘も大学のローターアクトクラブ会長を務めました。

ニックネームは「ゲームチェンジャー」

2011 - 12年度、ババロラ氏はシェルで働きながらガバナーを務めました。当時、ガバナーの多くは退職した人、あるいは自営業者でした。「このままでは成功できない。状況を変える必要があると感じました」。ガバナー補佐や委員長との最初の会合で、提案には必ず「何がゲームチェンジャーなのか」を示すよう求めました。

「従来と何が違うのかが明確でない場合、提案は差し戻しました。この人は本気で変化を求めている、と周囲は気付いたのでしょう。『ゲームチェンジャー』と呼ばれるようになりましたが、変革のアイデアはみんなで見出したものです」

ショートメッセージで8万ドルを集める

変革の一環として、テクノロジーも積極的に活用しました。11月1日、ロータリー財団月間の初日。午前3時ごろ、オンラインで地区に呼びかけました。「金額に関係なく、今日、財

“会員になることが、自分の人生にどれほど持続的な変化をもたらすのかを、人びとに伝える必要があります”

団に寄付をしてください」。数時間後、自ら寄付をして、そのことを投稿すると、わずか数時間で8万ドルが集まりました。

「従来は集まってお願いしていましたが、テクノロジーを使えば、対面せずとも行動を促せます」

その年、地区内全てのクラブが財団に寄付し、総額約100万ドルに。アフリカ大陸の地区として、過去最高額でした。

スキューバダイビングを楽しむ時間がもっと欲しい

水深30mまで潜れる資格を持ち、地中海、紅海、大西洋でのダイビング経験があります。エジプトの紅海沿岸にあるリゾート地ハルガダで潜るのが夢だといいます。「サンゴ礁が本当に素晴らしいんです」

水泳やガーデニング、バードウォッチングも趣味で、故郷近郊にのみ生息する希少な鳥「イバダン・マリムベ」を見たこともあるそうです。

2026 - 27年度会長メッセージ

「持続可能なインパクトを生み出そう」

ロータリーのビジョン声明はこう始まります。「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生み出すために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」。2025 - 26年度、RIは「よいことのために手を取りあおう」というメッセージを通じ、ビジョ

ン声明にある「手を取りあって」に焦点を当ててきました。26 - 27年度は、その次の段階、「持続する変化」を生み出すことに取り組みます。

「ポリオ根絶や平和センター、グローバル補助金など、世界規模の持続可能な変化は理解しやすく、会員たちは実際に地域社会で持続可能な変化を生み出しています。一方で『自分に起きた持続的な変化』を尋ねると、会場は静まり返ることが多いのです」

ロータリーを成長させる鍵は

「自分への変化」

プロジェクトの成果を測ることは重要ですが、「それが自分にどんな影響を与えたか」も問うべきだと語ります。

「私は恵まれた環境で育ちました。ロータリーは、その特権的な世界から私を連れ出し、地域社会の現実と向き合わせてくれました」

多くの会員が、人生がどう変わったのかという物語を持っています。「この組織を成長させるには、会員になることが、自分の人生にどれほど持続的な変化をもたらすのかを、人々に伝える必要があります。その手助けをしたのです」

ロータリーが彼を“外交官”にした

2018 - 20年度、RI理事として80以上の国・地域を担当。そこにはアフリカ、中東、欧州の政治的に繊細な配慮を要する地域も含まれていました。

エジプトでのロータリー研究会では、西サハラを独立国として表示した地図を巡り、政府高官から連絡を受けたこともあります。「こうした経験が、必要な感覚を養ってくれます」

アフリカ出身2人目のRI会長として

「アフリカの人々にとって、大きな意味があります」。そしてこう続けます。「話すだけでなく、行動すること。うまくいっている例は、遠慮なくまねすればいい。恐れるべきは失敗ではなく、挑戦しないことです」